

# 主張

みなさんには、大切な友達がいますか。

私の友達は、優しく、落ち込んでくるときや元気がない時には、いつも楽しく笑わせてくれます。時には喧嘩もしてしましますが、やはり友達が大切なと感じます。

## 友達の大切さ

### 浦幌町中学生意見発表会出場

例えば、私はこれまでに友達と些細なことでも喧嘩をしてしまったことがあります。その時、友達と互いに口を利かず、気まずい雰囲気になりました。そして、私は困っていても喧嘩をしてい

たせいで、助けを呼ぶことができませんでした。そんな時、「なぜ私は喧嘩をしてしまったのだろう、意地を張ってしまったのだろう。」と後悔しました。自分の間違いに気づかされ、達の存在を、改めて深く考えることができました。



また、私が勉強面で困っている時にも、友達の大切さを実感することがあります。私は苦手の教科の問題を解くのに時間がかかります。困っていると、周りの友達は、優しくわかりやすいように教えてくれます。いつも側

にいたる友達が、どれだけ大切な存在なのかを実感します。友達は、私にとってなくてはならない存在です。友達は、自分の弱い所も、強い所も、格好良い所も、悪い所も、全部見せられる人であり、受け入れてくれる人。そして、思いやりをもって、お互いを支え、信頼できる人だと、私は思います。

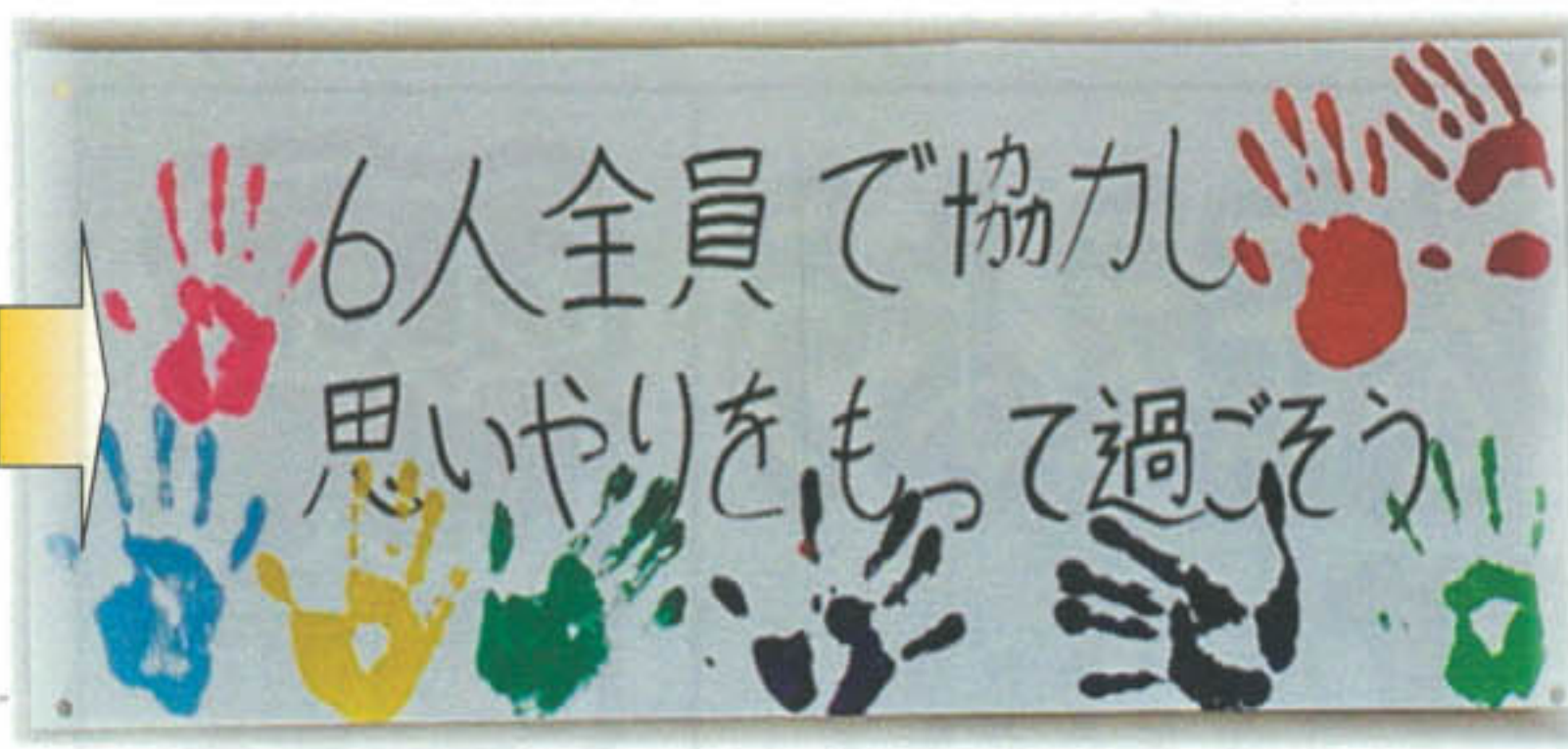
色々な面で困った時、私の周りにいる友達は親身に相談に乗ってくれ、寄り添ってくれます。友達といくと、本当の自分、新しい自分を知ることが出来ます。友達と「一緒に過ごす時間」は、お互いを知り、分かち合うための大切な時間だと思っています。

さらに、友達は自分を成長させてくれます。特に、人間関係の悩み

などでは、友達がその時どのような状況で、どのように解決したのかなど、知らないことを教えてくれます。自分にとって何が大切なのか、自分では見落としていた気づかないことも、客観的に感じることが出来ます。友達はかけがえのない存在です。

しかし、ある時、「友達は本当に必要なのか」と、考えることもありました。確かに、人間関係のトラブルを防いだり、一人でいることが楽な時もあります。一人であることは悪くありません。けれどそれ以上に、友達といくと沢山の経験を得ることが出来ます。もちろん良い経験ばかりではありませんが、沢山の関わりや経験を重ねること、友達の大切さやありがたさをもっと分かってくると思います。

私は、何度も友達の大切さ、ありがたさを実感した経験があります。私が、リレー競技に参加した時、バトンの受け渡しに失敗し記録を残すことができません



この目標には、「心を合わせて助け合おう」という思いが込められています。六人全員が協力をもち、また一人一人が思いやりをもちながら過ごせるようなクラスになったらいいなと思っています。

また、一人でも欠けちゃいけないという思いも込められています。だから、一人が困っていたら他の五人で助け合ったり声を掛け合ってきました。「変わります」

☆私たちの学級目標は、「6人全員で協力し、思いやりを持って過ごそう」です。この目標を達成するために、一年生みんなで協力して一・二学期を生活してきました。

「手伝います」といって自分から声をかけたり、仕事をやる人が増えていきました。こう考えながら、この目標を達成するために、一年生みんなで協力してきました。

9ヶ月を振り返ってみて、学級で成長したと思うことは、みんなで協力できるよになってきたことです。体育や農業活動の時に最初は先輩方が片付けをしているのを見てとまどっているだけでした。み

んなすばやく行動して、授業準備もできるようにになりました。特に協力が感じられた場面は、学級レクの計画です。私は、子供とを積極的に言うことが出来るようになりました。

また、積極的に行動すると、小学生の時の私たちは、先生に言われてから動くことが多かったのですが、中学生になって先輩にも「変わります」「や「持ちます」、な

## 学級はどんどん成長中!



担任の先生が毎週書いてくれている学級通信。

## 個人個人も成長中!

それぞれ成長点を考えて振り返ってみました。○部活の時に意見を出すことや声をかけることです。最初は誰かに意見を出してもらっていましたが、自分のやりたいことを言うたり声をかけ合うことが出来るようになりました。

○挨拶・返事です。小学校の頃は、先生が挨拶したら返すだけでしたが、今は意識しなくても自分から自然と挨拶ができるようになりました。また、先手挨拶や大

きい声で元気よく挨拶することも心がけてきました。中学校に入り、特に意識していることは、相手の目を見て立ち止まって挨拶をすることです。そして、学校以外でも道ですれ違った人などに挨拶ができるようになりました。

○字が速く書けるようになったこと。字がばらばらにならないように書けるようになったことです。

(珠季・知里・理央・弘法・優凛・咲耶)